

龍澤秋曉

たきいほ
しゅうけい

詩人、小説家。明治八年二月二十日長野縣生れ、昭和

二十一年一月二十七日歿（一八七五—一九五七）。本名彦太郎。筆名一刻值千

金生、春宵臺、殘星、秋曉生、落鳳坡、讀不書生、赤けりこ、農夫、

迎冬峰、逸名、霧村、SRS等。上京して美術學校の學心、雜誌『少

年文庫』の記者となること、病を獲て明治二十九年歸郷、家業の養蠶に従

事。傍ら所謂人文座派の中心として評論、小説を發表。おの、横瀬夜

雨、伊良子清白、小島雉水等を發掘するほど活躍。

著書『水あらし』（合著、明治二十二年二月—二十九年内外出版協會）、

『有明月』（明治二十二年八月—二十九年内外出版協會）、『養蠶新書』

（本名、明治二十五年四月—二十八年内外出版協會）、『愛の解剖』（明

治四十年四月—二十八年白山堂書店。附録・小説「大尾」）等。